

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3577700184		
法人名	(有)大昇		
事業所名	グループホームねたろう		
所在地	山口県山陽小野田市大字福田949-1		
自己評価作成日	平成28年9月7日	評価結果市町受理日	平成29年5月24日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度ホームページで閲覧してください。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 やまぐち介護サービス評価調査ネットワーク		
所在地	山口県山口市吉敷下東3丁目1番1号 山口県総合保健会館内		
訪問調査日	平成28年11月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・古民家改修型で季節感を感じられ、利用者が馴染みやすい ・自然に囲まれており、ゆったりとした時間の中で過ごす事ができる ・三食手作りの食事を提供している ・毎日入浴し、個々に応じた介護をしている ・施設しておらず、自由に外に出たりできる ・毎月各利用者ご家族宛に、個々の写真に日々の様子や変化を書き添えお伝えしている ・終末介護も行っている
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

古民家を改修した事業所は里山の田園風景に囲まれ、利用者は窓からの眺めや軒下のベンチでの外気浴、散策などで、季節ごとに稲の成長や木々の色彩の変化を楽しんでおられます。食事は、利用者の好みに合わせた献立を立てられ、差し入れの野菜や畑で採れた野菜、地元の季節の食材をつかって、三食とも事業所で調理しておられます。利用者は、魚をさばいて刺し身をつくれるなど得意なことをされたり、野菜の下ごしらえや味付けなどを職員と一緒にされて、「キュウリを切る音が心地よい」「みそ汁の匂いがおいしそう」と利用者が生活の中で食事の喜びを感じられるよう支援しておられます。運営者や職員は話し合っ看取りのケアに取組まれ、医療との連携を進めて利用者や家族の希望に添ったケアを充実させておられます。職員は「自分の意思を発信し、自分で考え業務遂行が出来る」という目標を掲げられて、毎月の内部研修で自分の学びたい内容を講師となって伝達され、自己啓発に努めておられます。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～56で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印	
57	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	64	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
58	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	65	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
59	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
60	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員は、生き活きと働けている	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
63	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価		
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で理念を構築し玄関に掲示し、理念を共有し実践に向けて取り組んでいる	今年度、全職員がミーティングで話し合い、新たに「認知症になっても、住みなれた地域で、家族、地域の方々と共に支え合って、その人らしく暮らしていけるように支援していきます」という理念をつくっている。事業所内に掲示し、各自がノートに書いて共有して、理念に添って「観察」と「ケア」で利用者のその人らしさを守るよう、実践に取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に加入し、地域への行事にもお誘い頂いたり、お大師様参りなどをし葬儀等のお手伝いにも行っている	自治会に加入して運営者が総会に出席している他、年2回「事業所だより」を回覧して事業所の様子を伝えている。職員は自治会内の葬儀の手伝いに行ったり、利用者がお大師参りやどんど焼き、神社の夏祭り等に職員と一緒に出かけて、地域の人と交流している。自治会長が自主的に事業所前の道の補修をしてくれたり、民生委員の来訪や近所の人から新米や野菜などの差し入れがあるなど、日常的に交流している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議において、認知症に関するテーマを取り上げ、話し合い相談等受けている。またねたろう通信を定期的に配信している			
4	(3)	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる。	自己評価は全員で行い、外部評価で指摘された項目などスタッフに伝え、それを改善するよう取り組んでいる	自己評価は運営者や管理者が評価の意義について説明し、全職員に自己評価のための書類を配布して記入してもらい、ミーティングで全職員で話し合っ、代表者と管理者がまとめている。外部評価を基に目標達成計画を立て、各職員が「自分の意志を発信し、自分で考え業務遂行が出来る」ということを掲げ、内部研修の年間計画を立て、職員が講師となって学び合い、全職員が意見を言う機会をつくっているなど、評価を活かして改善に取り組んでいる。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は二ヶ月に一度行い、現状報告や活動報告をし意見交換を行っている	会議は2カ月に1回開催し、利用者の状況や事業所の行事や研修などの取り組み、ヒヤリハット・事故報告、外部評価結果、避難訓練、終末や看取りケア等の報告を行い、意見交換をしている。メンバーから地域の防災訓練の情報を得て、事業所として参加を予定するなど、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	
6	(5)	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	空きがでた時や、わからない事があった時は連絡を取り指導を仰ぎ、運営推進会議においては現状や活動報告を伝え関係は築いている	市担当者とは、運営推進会議の他、介護保険の更新や申請時に直接出向いたり、メールや電話等で相談や情報交換をして協力関係を築くよう取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは運営推進会議時に情報交換をしたり、出向いて利用者の入所や制度活用等について相談をして連携を図っている。	
7	(6)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束ゼロ宣言を玄関に掲げ、日中は出入り可能にし、また施設内研修を行い身体拘束しないケアに取り組んでいる。ただし生命の危険があると思われる場合は、ご家族に説明し理解して頂いている	職員が講師となってマニュアルに基づいた内部研修を行い、全職員が研修報告書を提出して理解して、身体拘束のないケアに取り組んでいる。スピーチロックについて気になるところは、運営者や管理者が指導している。主治医と相談し、ドラッグロックとならないよう配慮している。玄関の施錠はしておらず、利用者が外出したいことを察した場合は利用者に寄り添って行動を共にしている。	
8		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全職員に虐待防止マニュアルを渡し、年一度施設内研修を行い注意を払い、気になる言動があれば個々で注意をしている		
9		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設内研修を行っており、必要と思われた時は関係機関と協力している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約前に見学と事前説明を行い、契約には十分な時間を取り理解・納得を頂き契約している		
11	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等からの相談、苦情の受付体制や処理手続きを定め周知するとともに、意見や要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族との関係も良好に築けるように面会時には積極的に話しかけ意見要望を聞き反映している	相談や苦情の受付体制、第三者委員、苦情処理手続きを明示し、契約時に本人や家族に説明している。運営推進会議参加時や面会時、電話、苦情箱などで家族の意見や要望を聞いている。毎月、家族に個別の写真やコメントを添えた文書を送り、意見を出しやすい工夫している。運営に反映するまでの意見は出ていない。	
12	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一度のミーティング時、必ず意見や要望を聞く機会を設け、他者スタッフから耳に入った時は本人に確認している	運営者や管理者は、月1回のミーティングや日常の業務の中で職員の意見や要望を聞いている他、職員が連絡ノートに記載して伝えている。風呂場のリフトの修繕に関する意見があり、改修して利用者のリスクの軽減につなげるなど、意見を運営に反映させている。	
13		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の状況をきちんと把握しており、それぞれに応じた条件を提示している		
14	(9)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修は職員が交代でリーダーとなり研修を行っている。また外部の研修にも参加できるようにしている	外部研修は職員に情報を伝え、段階や希望に応じ、勤務の一環として参加の機会を提供している。内部研修は年間計画を立て、毎月1回、事故発生予防、接遇マナー、認知症ケア、感染症・食中毒、虐待防止、身体拘束、個人情報保護法、倫理及び法令遵守等について職員が講師を務めて実施している。職員は自分の学びたい内容を示し、他の職員に伝達するという方法で資質の向上を図っている。資格取得希望者には研修に伴う交通費の助成を行うなどの支援をしている。新人職員は、先輩職員が担当となって1カ月間指導して、働きながら学べるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に参加し、研修や交流会がある時には参加し、情報を得てサービスの向上に努めている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
16		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所されて間もない時は、お互いの理解を深める為に関わる時間を多く持ち、その中でいろいろな思いに耳を傾け安心して過ごして頂けるよう努めている		
17		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学や面会時にお話しする時間を取り、不安や要望など話しやすい関係に努めている		
18		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	自施設だけでなく対応が無理と思われた場合などは、他施設に紹介したりしている		
19		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人のできる力を見極め協力して頂いたり、人生の先輩として教えて頂いている		
20		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人の気持ちと家族の気持ちを汲み取り、時には代弁者となり、相互が良好な関係を築けるよう努めている		
21	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会の制限は行わず、電話や手紙を利用し関係が途切れないように努めている	家族の面会、親戚の人や友人、知人の来訪がある他、電話や年賀状での交流を支援している。飼い猫も一緒に入居したり、行きつけの美容院の利用、買物や受診の機会を利用した自宅付近のドライブ、家族の協力を得ての外出や法事への出席など、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の関係を把握し、通院やテーブル席、車内での座席位置に配慮し孤立しないようにしている		
23		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院中のお見舞い、手紙の継続、訃報時の対応、お会いした時は挨拶しお話している		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
24	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で希望を聞いたり、表情や声など普段と様子が違う時など気をつけ、どのように生活していく事が一番幸せかを基本として考えている	入居時に本人や家族から得た情報を基礎情報として記録している。日常生活の中での利用者のつぶやきや職員の気づきを業務日誌や連絡ノートに記録して共有し、申し送り時に職員間で話し合って思いや意向の把握に努めている。困難な場合は、利用者のつぶやきを聞いたり、思いを推し量って、本人本位に検討している。	
25		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントを取り本人やご家族から情報を得るように努めている		
26		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人ひとりできる力、心身状態を把握し、それぞれ適した過ごし方ができるよう努めている		
27	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の作成はミーティングに話し合い、ご家族やご本人より希望を聞き現状に添った介護計画を作成している	計画作成を希望する職員が担当となって1か月間観察を行い、計画作成担当者と共に中心になって、全職員で月1回カンファレンスを開催し、利用者や家族の思いや要望、主治医や看護師の意見を参考にして話し合い、介護計画を作成している。日々のケアを業務日誌に記載し、1年毎にモニタリングをして計画の見直しをしているが、記録からモニタリングの状況を十分に把握できるとはいえない。本人や家族の状況に変化が生じた場合は、その都度見直しをして、現状に即した介護計画を作成している。	・モニタリングの工夫

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	短期目標を日誌に記入してあり目標に添った記録をし、ミーティングなどで話し合いをし介護計画も各自の状態に合わせ見直しを行っている		
29		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご利用者様の健康状態によって、ご家族の了解のもと訪問看護や訪問診療や訪問歯科のサービスを取り入れている		
30		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	消防・警察・地域住民との交流の中で安全に暮らしていける支援をしている		
31	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	認知症の方の話をよく聞いて下さる優しいかかりつけ医で、月一度定期受診し往診や訪問看護にも入って頂ける	本人や家族の同意を得て、全員が協力医療機関をかかりつけ医としており、1週間に1回の往診や毎月1回の定期受診の支援をしている。他科への受診は必要に応じて、家族の協力を得て支援している。週3回、訪問看護の来訪があり、利用者の健康管理や職員の相談に応じている。受診結果は業務日誌に記載して職員が共有し、家族には電話や毎月の近況報告で伝えている。緊急時は協力医療機関と連携し、適切な医療を受けられるように支援している。	
32		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内で情報を共有し、誰でもかかりつけ医や訪看に伝えられるようにしており指示を仰いでいる		
33		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はスタッフが付き添い情報提供をしている。入院中はこまめに見舞いに行き、ご家族とも密に連絡を取り、必要に応じて医師からの説明もご家族とともに聞いている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	今後起こりうるであろう状況を早めに見極め家族に説明し、医師と家族とともに今後の方針を決定している	契約時に本人や家族に事業所でできる対応について説明している。実際に重度化した場合には、早い段階から本人や家族の意向を聞き、かかりつけ医と相談し、関係者でその都度話し合い、他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、支援に取り組んでいる。運営者や職員は話し合って、家族の希望に添った看取りケアに、医療と連携して取り組んでいる。	
35	(15)	○事故防止の取り組みや事故発生時の備え 転倒、誤薬、行方不明等を防ぐため、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組むとともに、急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身につけている。	ヒヤリハットや事故報告がある時はミーティング時に話し合い事故防止に取り組み、また年一度救急救命講習や研修を行っている	事例が生じた場合は、その日の職員で話し合い、ヒヤリハットノートや事故報告書に、発生状況や対応等を記録し、翌日の申し送り時に職員に報告している。報告書を回覧し職員全員が防止策についてコメントを書き、月1回のミーティングで防止策について再検討して、一人ひとりの事故防止に取り組んでいる。年1回、消防署の協力を得て救命救急講習とAED使用訓練を全職員が受けている。内部研修で訓練を実施しているが、全職員が応急手当や初期対応の実践力を身につけているとは言えない。	・全職員が実践力を身につけるための応急手当や初期対応の定期的訓練の充実
36	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回昼夜を想定した避難訓練を行い、マニュアルもありミーティング時にも勉強会を行っている。また自治会への協力をお願いをしている	年2回、昼夜を想定した火災時の通報、消火、避難誘導訓練を、利用者と一緒に実施している。周辺の介護施設と災害時の利用者の受け入れや職員派遣などの相互援助について防災協定を結んでいる。地域の人に参加する緊急連絡網ができていますが、夜間の避難誘導など、地域の協力体制が十分とはいえない。運営推進会議での情報から地域の防災訓練に参加を予定している。	・地域との協力体制の構築
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
37	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	施設内研修でプライバシー保護研修を行い、他者の言葉がけにも注意している	マニュアルがあり、内部研修で接遇、プライバシー、個人情報保護などを学んで、職員は利用者一人ひとりの人格を尊重し誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。不適切なところがあれば運営者や管理者が指導している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	スタッフと利用者という関係でなく人として接し、本人が希望や思いを伝えやすい関係づくりに注意し、自己決定の機会を多く持てるようにしている		
39		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	離床から就寝までその日の体調をみながら、一人ひとりのペースに合わせて支援し過ごして頂いている		
40		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	美容理容は希望あれば支援し、これまで通りの本人のおしゃれが出来るよう支援している		
41	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むき・台拭きなどできる事は手伝って頂き、食べたい物のリクエストあった時、次にはそのメニューを提供し、味付けはご自分で決定できるものはそのようにしている。そして職員も同じテーブルに着き食事している	利用者の好みや食べたいものを聞いて献立を立て、差し入れの野菜や畑で採れた野菜、地元の季節の食材を使って、三食とも事業所で調理している。利用者は魚をさばいて刺身をつくるなど得意なことをしたり、野菜の下ごしらえ、味付け、お盆拭き、テーブル拭き、食器洗いなど、できることを職員と一緒にしている。利用者と職員は同じテーブルで同じものを会話を楽しみながら食べている。おやつづくり(蒸しケーキ、マドレーヌ、ぜんざい、おはぎ、甘酒、ホットケーキなど)や季節の行事食(おせち料理、ちらしずし、ソーメンなど)、誕生日のリクエスト献立、好みの飲み物、屋外での食事(常磐公園など)、外食(カラオケハウス)、家族の協力を得ての外食など、利用者の食事が楽しみなものになるよう支援している。	
42		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事量や水分量は記録し、マッシュ食・小むすびなど、一人ひとりの状態に応じた調理法で提供している		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後個々に応じた口腔ケアを行い、夜間に義歯洗浄を行っている		
44	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	各自に合わせ綿パンツ・リハビリパンツを使用し、一人ひとりの排泄パターンを知りトイレ誘導を行い自立に向けた支援を行っている	排泄表を活用して、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、習慣を活かして、言葉かけや誘導を行って、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援をしている。	
45		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給や調理を工夫したり、また歩行や体操を行ったり運動している		
46	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	一人ひとりの体調を確認し毎日入浴して頂いている。夜間は夜勤者一人なので入浴は行っていない	入浴は毎日、8時から12時の間可能で、職員との会話を楽しみながら、ゆったりと入浴できるように支援している。季節の菖蒲湯や柚子湯の香りを楽しんだり、シャワー浴や清拭、足浴など一人ひとりの状態に応じた入浴の支援をしている。入浴したくない人には、言葉かけの工夫をしたりタイミングを見計らった誘導をするなど工夫して支援している。	
47		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自個室の為、休みたい時休めるようになっており、エアコン使用し安眠できるよう支援している		
48		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬に際しては個々に応じた対応しており、口の中に入れたり見守りしている。症状に変化があれば主治医に相談し指示を仰いでいる		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(21)	○活躍できる場面づくり、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ・テーブル拭き・お盆拭き・新聞分けなど活躍できる場面づくりをし、裁縫・カラオケ・CD鑑賞・ゲーム・ボール投げ・散歩・外気浴など気分転換の支援している	餅つき、クリスマス会、豆まき、おやつづくり、テレビやDVD、CD(演歌やクラシック音楽)の視聴、雑誌や新聞を読む、七夕飾りづくり、カラオケ、トランプ、カルタ、しりとり、脳トレ(ことわざ、四字熟語)、猫の世話、体操(ラジオ、テレビ、口腔、発声、タオル、ジャンケン)、歩行訓練、マッサージ、ボール投げ、折り紙、野菜(蒔、プチトマト)の収穫、調理の下ごしらえ、刺身を作る、味付け、お盆拭き、テーブル拭き、食器洗い、洗濯物たたみなど、利用者一人ひとりが活躍できる場面づくりや楽しみごとの支援をしている。	
50	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや散歩や外気浴や美容院などの支援を行い、お雛さま巡りや花見や行楽など事前に計画を立てて行っており、家族へも墓参り・買い物等のご協力をお願いしている	初もうで、ドライブ(常盤公園でピクニック、自宅周辺など)、季節の花見、お雛様巡り、花火大会、ほたる祭り、お地蔵様参り、行きつけの美容院に行く、受診の機会を利用した買い物、近隣の散歩、外気浴(外庭でおやつなど)、外食(カラオケボックス)、家族の協力を得ての外食や法事への出席など、希望に添って外出できるように支援している。	
51		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族了解のもと個人的にお金を持っている方もいるが、ほとんど方は金庫に保管し必要に応じて使用できるようしている		
52		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人から希望があった時や贈り物が届いた時にお礼の電話をしており、携帯を持っておられる利用者様は自由に電話されている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングや出窓や廊下より外が眺められるようになっており、室温は利用者様に聞き調節し快適に過ごして頂けるよう支援している	古民家を改修した事業所は、懐かしさを感じるような家庭的な雰囲気がある。リビングや廊下にソファや椅子を配置し、利用者はゆっくりとくつろいでいる。窓からは里山の田園風景を臨むことができ、季節ごとに稲の成長や木々の色彩の変化を眺めることができる。軒下にはベンチやテーブルを置き外気浴を楽しんでいる。猫がのんびりと寝ている。台所からは野菜を切る音やみそ汁の匂いがして、生活感がある。室温や湿度、換気に配慮して居心地よく過ごせるよう支援している。	
54		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはソファ二台置き、出窓でも寛げるよう椅子を置き、軒下で外気浴できるようにベンチやテーブルを置き思い思いに過ごして頂いている		
55	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	なるべくご自分が使用していた物を持ってきて頂いており、ベッドの向きもこれまでの事を聞き設置している	整理ダンス、衣装ケース、寝具、テレビ、時計、雑誌など使い慣れた物や好みの物を持ち込み、本人が居心地よく過ごせるように工夫している。	
56		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の身体状況に合わせた部屋の配置で、廊下やトイレや玄関に手すりを設置し、スロープには滑り止めをしており、つまづきやすい段差には色テープを使用している		

2. 目標達成計画

事業所名 グループホーム ねたろう

作成日：平成 29 年 5 月 24 日

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	5	運営推進会議を生かした取り組み	今回の外部評価に於いて、“工夫しているがもっと生かせるのでは？”の一言を受け、地域に貢献できる工夫	運営推進会議への参加者に、ご自宅にお年寄りがいらっしゃる方にアプローチする。	通年
2	14	指示された業務だけでなく、自らの考えで行動する事が少ない点、及び、ミーティング時意見等の発言が少ない。	運営理念を基本とし各スタッフが介護についての自分なりの理念を持ち知識や介護力を向上させ、自分の意見を発言できるようになり、自分で考え業務遂行できるようになる。	配備してある介護関連書を自宅等での学習に持ち帰りを促し、ミーティング時それぞれの課題について、各自の意見や質問等の発言機会を設け、問題を提起し、解決策を考えていく機会を持つようにしていく。	通年
3	15	職員間で事故発生時の実践力に差があり、実践力を身につける事で利用者及び職員を守りたい。	すべての職員が事故発生時に備え実践力を身につけ戦力アップし、次のステップに進みたい。	継続的に救急救命講習等を行い、内部研修等で実践力を身につける。	通年
4	16	地域の防災計画、施設としての防災対策等、地域の中で協力体制	自治会の防災システムを理解と把握し、自治会との協力体制を構築する。	自治会での防災システム協力体制を構築し、火災のときなど近所の方が自治会館まで避難の手伝いをして下さる様な関係を築く。	通年
5	36	緊急非常時等に一時避難場所及び駐車スペースの確保。	利用者さんが安全に、又、ご家族地域の方々等との交流に役立つ様にスペースを確保する。	以前より借り受けている畑を地権者より用途変更の承諾を受け、緊急時の一時避難場所及び駐車場を確保し、常時使用可能にする。	通年

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。